２０２０年９月

三富福祉会通信

Vol.10

（社福）三富福祉会
広報部　発行

山梨市三富川浦 2203
0553-39-2714

http://park11.wakwak.com/~sirakaba/

２０２０年度　第１号

特集：ハロハロキッズの移転

「新しいハロハロキッズの活動報告」

■新しい生活様式で行う活動

「今、各事業所でできること」

■新人職員紹介

「２０２０三富福祉会のルーキーたち・異動のお知らせ」

9
2020

２０２０年9月

昨年１１月に 10 名の方が入所施設から GH へ移行され、利用者様の生活も大きく変わり始めた矢先、新型コロナウイルスの流行により、感染症と共存する為の努力や支援が始まりました。三富福祉会通信も５月号をお休みし、久しぶりの発行になります。

今回は生活様式による事業所の変化も含め、今後の取り組みをお伝えしたいと思います。また、今年もたくさんの新人職員が入職しています。それぞれの意気込みなども紹介していきたいと思います。

特集☆ハロハロキッズの移転

～新しいハロハロキッズの活動報告～

「放課後等デイサービス　ハロハロキッズ」の移転について

ハロハロキッズ管理者　齊藤　実

ハロハロキッズは放課後等デイサービスというサービスを提供しています。
放課後等デイサービス事業は、主に６歳から 18 歳の障害のある児童を対象として、放課後や夏休み等の長期休校日に生活能力向上のための訓練および社会との交流促進等を継続的に提供する事業です
ハロハロキッズは平成２８年１０月に甲州市の三日市場に開設しました。
当時ハロハロ二番館での日中一時などの特に児童の預かりが飽和状態になっており、その解消が懸案事項となっていました。そのころ全国的にはすでに多くの放課後等デイサービス事業所が全国で開設され、一つのブームのようになっており、あまりに多くの事業所が一斉に全国で開設された為“雨後の筍”などと揶揄されることもありました。
平成 28 年 10 月に開設して３年半を甲州市三日市場で活動していましたが、今年３月にハロハロ二番館の隣に移転をしました。

定員は移転前と変わらずに 10 名です。山梨市、甲州市の児童を対象にして、登録している方は２０名の方がおり、学校の数では 14 校にのぼり、毎日いろんな学校から集まってきます。
建物は以前と比べると少しだけ小さくなりましたが、新築の建物で子供たちは元気に過ごしています。
事務所は２階にあり、ハロハロキッズとハロハロ二番館の事務所として使っています。
移転を機に、これまでの３年半を振り返り、これからも子供たちが自分らしく過ごせる場所として存在できるように頑張っていきたいと思っています。

２０２０年9月

ハロハロキッズの活動報告

児童発達支援管理責任者
篠田梨恵子

ハロハロキッズは登録者 20 名、毎日 10 名前後の子どもたちが放課後や休日の日に来所されています。
現在は、小学校３年生から中学１年生の年齢の近い学齢期の子どもが在籍しています。
ハロハロキッズではお友達、職員と共に、活動(プログラム)や関わりを通して、良質な経験、体験（失敗体験も）を積み重ねる事が出来、その中で子どもたちが、「ここにいていいんだ。」「自分らしくいていいんだ。」と、そんな気持ちを自然と感じられる、そんな支援や居場所を提供していきたいと思っています。

プログラムは、工作、感覚遊び、音楽活動、公園遊び、水遊び、習字、調理、園芸活動、集団遊び(買い物練習)、生活訓練等を行っています。

プログラムの紹介(一部紹介)
〇ハロハロみんなの会…毎週第一土曜日に開催している話し合いをする時間です。月の目標決めを行ない、意見を出し合ったり、振り返りを行なったりします。
〇感覚遊び…子どもの脳が必要としている感覚遊びを、活動を通して受容できるよう提供しています。現在では、スクイーズやスライム作り、小豆、ビー玉、水を使った遊びをしています。
〇生活訓練…キッズ周辺のゴミ拾いをして分別したり、衣類、タオルたたみ等の練習を行なっています。
〇習字…年始に年の目標を書いたり、感じた事、好きな事等、自由に書きます。筆だけではなく、手や指を使って表現をする子どももいました。
〇調理…新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在では大々的には行えていませんが、ソーシャルディスタンスを確保しつつ、おやつ作り等を行なっています。
〇工作…季節の壁画作りや自由工作、イベントに合わせた作品作り等を行ないます。子どもたちの発想は無限大です。

　また、新型コロナウイルス感染拡大の為、学校が休校となった際には、キッズを利用された子どもはキッズにて、ご家庭で自粛してくださった子どもは家庭にて、『ぼくたち、わたしたちのまちづくり』と称し、自分たちが考える自由な空想の中での町を想像して個々で制作し、休校明けにみんなでひとつのマップを作り上げました。ハロハロキッズの個性あふれる大作です。ぜひ、見に来てください★

２０２０年９月

理事長より

～コロナに負けないで前に進みます～

三富福祉会理事長
山西　　孝

新型コロナウイルス感染症は衰えることを知らず拡大を続けています。特に山梨県では以前より感染リスクが各段に増しています。今年の２月に東京隅田川の屋形船から十名以上の感染者が確認されたのがクラスターの最初でした。４月１６日に政府が緊急事態宣言を発令してから一旦は収束に向かったかに見えました。しかし早くも７月初めには再び感染拡大となってしまいました。

社会に大きな影響を与え続けているコロナです。自粛警察やマスク警察の出現、コロナ感染者への誹謗中傷など人間の愚かさや醜さが浮き彫りになっています。匿名で無責任な投稿ができる仕組みは何とかならないのでしょうか。

誤解を恐れずに言えば「人間の愚かさや醜さが浮き彫りになっている人達」は専門家の支援が必要な人たちで社会に悪影響を与えないように支援（治療）する必要があるのかもしれません。

障害福祉現場でもコロナの影響を多大に受けています。意外に誰も言わないのですが支援現場の職員はマスクの着用が支援の妨げになっています。顔の表情で気持ちを伝えることができないのです。目の表情を最大限に意識してお話をするのですが感情の伝え残りを気にしています。早くマスクを外して見つめ合いたいです。誰だってマスクをして大事な話をしませんよね。利用者の皆さんごめんなさい、今は貴方に万一でもコロナを感染させないことを優先します。

さて、法人としては入所施設の白樺園を地域移行して地域生活拠点とします。新たに生活介護（定員４０）を新設し、道路を挟んだ向かい合わせの土地に２０名分のグループホームを設置します。両方合わせて約１２００坪の広さとなる予定です。ここは昨年までもも畑となっていました。ここを「もも畑ファーム」と名付けて活動しようと思っています。ファームとは農場の意味ではなく「会社・コンパニー」の意味です。ソーシャルファームが雇用創出を主な目的としているとすれば、私たちの「もも畑ファーム」は生活すべての支援を行い、地域で暮らす人が社会から孤立したり排除されず地域社会の一員として暮らしていけるための地域生活拠点とすることを目指したいと思っています。生活介護、グループホーム、短期入所、相談支援の各事業を隣接敷地に設置し「もも畑」ファーム(firm）と総称します。

実はこの計画だけでは白樺園全体の移行計画とはならないのです。白樺園に２０人の利用者が残ってしまいます。あと２０名分のグループホームが必要です。とりあえず白樺園を２０名定員の日中支援型グループホームに転換してより地域生活に近い暮らしを実現します。もちろん将来的には街中への移転を計画します。このことで当面２億円の節約となります。　ただし、これでも計画終了とはいかないのです。グループホームを必要としているのは入所施設からの移行者だけではなく在宅で親御さんと暮らしている人の自立生活も考えなければなりません。法人は大宇宙のように膨張し続けなければならないのか？いや、どこかで歯止めをかけないとお金がいくらあっても足りないし、私を含めた職員は何時までも働き続けなければならなくなってしまいます。前の理事長からも「あんまり法人を大きくするなよ、大変になるだけだぞ」とご忠告を頂きました。私の叔父なので親心からの一言とありがたく頂戴しました。

菅政権が発足して厚生労働省大臣に田村憲久氏が再び就任されました。前回の厚生労働大臣の時に陳情でお目にかかった事が有ります。グループホームの建築に関する規制緩和をお願いしました。厚生行政に明るい実力者であると認識しています。個人的には山梨県が大雪で娘が看護師国家試験を受験できなかった時、異例の追試験を行ってくれた大臣です。新型コロナ感染症対策にも実力を発揮してくださる事を信じています。

新しい生活様式で行う活動

～今、私たちでできること～

「我慢」ではなく、「新しい楽しみ方」を模索する

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、新しい生活様式が求められています。法人のなかでも毎年恒例となっていたイベントなどがこれまでのようには行えない状況となりましたが、こんな時だからこそ「新しい生活様式」を作り上げ、安心して楽しめるイベントの企画を行いました。

その一つとして、今年は法人の中でも最も大きなイベントである「白樺祭」の中止が決まっていました。そこで、ただただイベントをなくしてしまうのではなく、毎年、白樺祭を心から楽しみにしている白樺園で生活されている利用者様が少しでも夏らしいお祭りの雰囲気を味わえるように、「夕涼み会」を規模縮小をして行いました。当日は、３密を避け、安全な距離を保てるように座席の配置をし、例年に比べると模擬店やゲストパフォーマンスの数もかなり少ない中ですが、富士産業様、原田義輝様にご協力をいただき、とても楽しいイベントを安全に実現することが出来ました。

イベントの最後にはマルゴウ様による打ち上げ花火も観賞でき、多くの花火大会が中止になっている中、とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。また、ハナミズキホームは昨年 11 月に開所して、初めての夏を迎えました。本来であれば、新生活の中で夏のイベントをめいいっぱい楽しむはずでしたが、色々な地域のイベントや法人内の行事が中止となり、外出も思う様に出来ない中、少しでも夏らしく家庭らしい時間を過ごす事を目的に、ハナミズキの庭で手持ち花火を楽しみました。当日は安全に配慮しながら、ささやかですが、夏の風物詩ともいえる花火の美しい光をみながら、それぞれの「新しい生活」に思いをはせました。今、直面している厳しい現実の中、ただただじっと息をひそめ「我慢」するばかりではなく、今できること、安全や安心の中で大切な人と一緒に過ごすための工夫を模索し、「新しい生活様式」の構築をこれからも目指していきたいと考えています。（望月）

ワーキングベースプロペラ新商品紹介

今年の ７ 月よりレジ袋の有料化が始まりました。その為、プロペラでは新商品であるエコバックを新たにラインナップしました。サイズは３４×３４センチ。耐荷重は２０㎏。折りたたむと１４×１０センチになり、携帯に便利なように専用の袋に入れられます。専用の袋には「HAND」のワッペンもついています。この機会に皆さんもいかがでしょうか☆（穐山）

２０２０年度　新人職員紹介

望月拓郎（もちづきたくろう）

「日々色々な事を学び、刺激をもらいながら、良い支援者となれるように精進していきたいと思います。」

深澤実紗（ふかさわみさ）

「利用者さんに対して、沢山の愛を持って一生懸命頑張ります。」

高嶋英男（たかしまひでお）

「自ら積極的に動き、一日でも早く仕事に慣れるよう頑張って行きます。」

市川和樹（いちかわかずき）

「白樺園を今より笑顔が多い、楽しい場所にできるように頑張って行きます。」

吹野大樹（ふきのだいき）

「日々、技術の進歩や知識の幅を広げ、自らのスキルアップに努めていきたいです。」

石田真弓（いしだまゆみ）

「元気いっぱいに、利用者さんを愛し、笑顔の時間を沢山作って行けるように頑張ります。」

渡井里奈（わたいりな）

「利用者様一人一人の特性や配慮を理解し行動できるようになり、利用者様のニーズを発見できる支援者に成れるよう頑張ります。」

奥秋美佳（おくあきみか）

「毎日利用者様と関わり、支援の楽しさや難しさを感じています。利用者様が安心して頼る事が出来る支援者を目指して頑張ります。」

職員の異動について

～今年度も職員の異動がありました。それぞれの事業所で新体制となります～

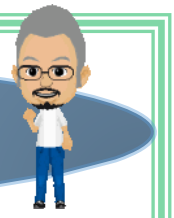
2020 年度４月正規職員異動は下記の通り

志村　好宣職員　W・プロペラ⇒ハロハロ二番館
池上　紫穂職員　白樺園⇒ハロハロ二番館
丸山　大祐職員　白樺園⇒W・プロペラ
朝倉　愛子職員　白樺園⇒ハロハロ一番館
「心機一転頑張ります！！」

２０２０年度もご本人らしさを支える
三富福祉会を目指します！！

服部所長の！

あ れ こ れ 大 事 な 話



平成 30 年度から“自立生活援助”という新たなサービスが始まっています。このサービスは“一人暮らし”という新たなステージに立った方々に対して、定期的に訪問して生活課題に対応します（標準サービス提供期間は 1 年間：一年延長可）。同行支援（一緒に外出する）支援も提供できるために、通院や社会参加活動等様々なニーズに対応しています。対象となるのは精神科病院を退院して一人暮らしをされる方、入所施設やグループホームを退所されて一人暮らしをされる方だけでなく、同居されていた保護者がお亡くなりになり、一人暮らしになってしまった方や、親御さんとの生活から自立した方、支援をしていた兄弟が亡くなり孤立してしまう可能性が高い方等々、市町村の判断で比較的自由にサービス支給する事ができます。

障害種別も問われず、ハロハロの相談支援部でも、知的障害の方、精神障害の方、高次脳機能障害の方、発達障害の方、アルコール依存の方々にサービスを提供しています。このサービスを始めて改めて考えさせられた事があります。それは人の“生きづらさ”からくる不安や苦しさは、専門的な相談や福祉サービスだけではその隙間を埋める事ができないという事です。人がバランスよく生活していくためには、安心安全に生活できる環境、社会の為になっていると実感できる職場・活動の場、自分らしさを保ち、確認するための人とのつながりや余暇活動が大事だと言われています。私達はそれを大事にしてマネージメントをしているつもりなのですが、どうしても“こうあるべきだ”という枠組みや、既存の社会資源につなげようとしてしまう傾向があります（反省も含めて）。

相談員でも訪問看護でもヘルパーでもない、とてもナチュラルな形で訪問する事により、自然な姿に寄り添う事ができると感じています。ただただ一時間昔話を聞いたり、愚痴を聞いたり、女子トークに付き合ったり、昔の武勇伝を聞いたり、万代書店に同行し、欲しいマンガを探し、きれいに並べるカラーボックスを一緒に組み立てたり…。その支援を通してこれまで見たことが無かった表情に出会う事ができます。以前ピアサポーターの方に教わったことがあります。“人生をマラソンに、支援者を伴走者に例える話をよく聞くが、伴走者が自分よりも体力があり明らかに足が速いと不安が益々強くなる…”。新たな生活は夢ばかりではなく、不安や焦りも大きいのは当然です。発揮するのは専門性ではなく人間性！その方のペースを大事にし“そのままのあなたも素敵ですよ”と伝えていくような支援を心掛けていきたいですね。　忍

三富福祉会のホームページがリニューアルしました

法人の取り組みや利用者の活躍などを掲載していき、より多くの方に法人の魅力などをお伝えしたいと考えております。是非、アクセスしていただき法人活動のご理解を深めて頂ければ幸いです。

現在、ホームページを以前のものから新しいバージョンに更新中です。更新後は「三富福祉会」で検索できますが、それまでは下記の URL を入力してご覧ください。なお、スマートフォンも対応しておりますのでお気軽にアクセスのほどよろしくお願いします

URL：mitomi-fukushikai.com

HP 担当：中込　学

人材 project

管理部長
佐野　毅

三富福祉会ではここ２年～３年、若い学卒の新規採用に恵まれました。一昨年は５名、昨年は８名、今春も８名の学卒新規採用者を迎えることができました。いずれも、皆さん明るく優しくやる気と情熱に満ち溢れた好青年ばかりです。

この流れに沿って今年も若い人材をたくさん確保できるかと思いきや、春から新型コロナウイルスの流行により、予定していた「合同就職説明会」は全て中止になりました。県内の各大学、専門学校とも授業は全て「オンライン」となり、大学のキャンパスから学生たちの姿が消えてしまいました。「今年の採用活動は一体どうなってしまうんだろう。」と採用担当として不安を抱えている中で、政府が提唱する「新しい生活様式」として「オンライン」を使った新しい就職活動のあり方を模索しています。「コロナウイルスとの共存」の時代になったのかも知れません。「新しい生活様式」を守りながら来春の学卒新規採用が期待どおりの成果が得られるようにしていきたいです。

☆表紙を飾った人☆

いつも笑顔の谷沢さん。作業活動だけではなく、書道クラブやダンスクラブでも大活躍です。谷沢さんの表情に魅了され、周りの皆も笑顔になってしまいます。（橘田）

谷沢由佳理さん

ご厚意ありがとうございました

2019 年度の三富福祉会後援会費合計額は1,772,000 円でした。

法人における社会福祉事業の為の後援会費につきまして沢山のご厚意頂きましたことを謹んで感謝申し上げます。ご協力された方々のお名前、金額等は失礼ながら控えさせていただきます事をご理解下さい。当法人が益々の発展を遂げるよう今後ともご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。（事務長　手島）

編集後記

三富福祉会通信 Vol　１０！

コロナウイルス感染症が流行し、皆さんの生活様式も流行前から比べ大きく変化していると思われます。生活する中で、非常に苦しい時期や不安な時期が続くわけですが、利用者様、職員、そして保護者様も我慢を強いられつつ、日々工夫をしながら乗り越えようとしています。そのような時、人間の強さと言うものを感じます。文句も言わず我慢する人、怒ったり、泣いたりしながらも乗り越えようとしてくれる人。決して法人の利用者様をはじめ職員は下を向いていません。新しい生活様式の中でも幸せに暮らす方法を日々模索しています。本当に頭の下がる思いです。これから冬に向けて感染症は更に脅威となるといわれていますが、予防策を講じる一方、生活の中で何が大切か、法人理念にそって基本的な事に立ち返りながら利用者様のサポートをしたいと思う今日この頃です。（山本）

広報委員：山本、吾妻、望月、橘田、青山、渡辺